

クウェート留学と今後

立命館大学文学部西洋史学専攻

橋詰華奈

留学に至るまでと現在

2015年9月初旬から約11ヶ月間の予定で、現在(執筆時2016年4月下旬)クウェート大学ランゲージセンターに語学留学しています。アラビア語を専攻しているわけでもない、アラブやイスラームの分野に特化しているというわけでもない大学(我が立命館大学文学部は国文学や中国・東アジア系が強い)に通う私が、わざわざ学外のアラビア語教室を探し学習し始めたのは、「イスラームの文化や歴史に興味があったから」という、本当にありきたりな理由です。そんな私がアラビア語を学習していくうちに、いつしか「アラブをもっと肌で感じたい」と思い、クウェート政府奨学金留学に応募、留学することとなり、そして現在に至ります。

ランゲージセンターと女子学生寮は別のキャンパスにあるため、毎朝多くの車が行きかうクラクションの渦の中を、寮のバスに揺られ、日本と比べて荒い運転に酔わないよう気を付けながら通っています。冬休み前のセメスターではゆっくり、英語を多用しながら授業を進めてくださっていた先生も、冬休み後のセメスターでは、英語をほとんど使わず、アラビア語の話すスピードも格段に速くなり、毎日必死にそれを聞きながら授業を受け、台湾人やトルコ人、ベトナム人、そしてもちろんクウェート人等、多くの友人に助けってもらいながら、毎日を過ごしています。

今後の進路

クウェート留学開始時、既に大学4年生であった私は、帰国後には5年生となり、12月提出の卒業論文と格闘する未来が待っています。また、卒業論文だけではなく、就職するのか、それとも大学院に進学するのか、早急に決定・行動しなければならないことが山積み状態です。「自分はいったい何がしたいのか、何が人よりもできるのか」留学前は全く分からなかったこのことが、今回の留学を通じて、日本がとても好意的にとらえられ「いつか訪れてみたい」多くの人に魅力的に思われている一方で、ムスリムにとって、食品の問題や礼拝場所の問題、日本人の宗教理解等、整備・解決しなくてはならない問題がまだまだ多く、イスラームと日本の心理的距離をもっと近づけることができるような仕事に就くことができると考えています。



2015年10月に行われた台湾の国慶節を祝うパーティーにて、トルコ人の留学生達と



クウェートタワー